

～人権はみんなが持つものを守るもの～

川西人権協だより



編集・発行 川西市人権教育協議会 〒666-8501 川西市中央町12-1(人権推進多文化共生課内)

第38回 川西市人権教育研究大会開催

テーマ

差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう！
人と人とのつながりを大切にしながら、くらしと地域に生きる人権文化を創造しよう！

主催 川西市人権教育協議会・川西市・川西市教育委員会



期日 2026(令和8)年2月6(金) 12:45～16:30

会場 アステ市民プラザ・アステホール(アステ川西6階)

日程

受付	全体会 記念講演	休憩・移動	分科会
12:15	12:45	14:25	14:45
			16:30

記念講演

「ハンセン病問題を考える
～家族の思いから人権侵害の本質に迫る～」
講師：黄光男(ファン グァンナム)さん
「ハンセン病家族訴訟原告団」の副団長



【黄光男さんプロフィール】

1955年大阪府吹田市で在日朝鮮人2世として生まれる。
1歳の時に母親と姉がハンセン病を発病、岡山の療養所に隔離され、本人は岡山市内の福祉施設で育つ。
1964年、家族5人が社会復帰し、尼崎で暮らす。尼崎工業高校卒業後、尼崎市職員に採用される。
ハンセン病の親のことは長らく語らなかつた。
2016年2月、「ハンセン病家族訴訟原告団(あじさいの会)」の副団長となる。尼崎市在住。

ハンセン病とは

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで引き起こされる感染症の一種です。かつては「癩(らい)」と呼ばれていましたが、差別的なイメージがつきまとうことから、現在はらい菌を発見したアルマウル・ハンセンにちなんで「ハンセン病」と呼ばれています。

ハンセン病は皮膚と末梢神経が主に侵される病気で、発症後、ゆっくりと進行する慢性感染症です。初期症状は皮疹と呼ばれる皮膚の病変と、痛さや熱さの感覚が失われる知覚麻痺です。治療せずに病気が進行すると、手足や顔などに運動障害や変形があらわれます。

現在では3種類の薬を半年から数年間服用する多剤併用療法という治療法が確立しています。ハンセン病は薬による治療だけで治すことができます。入院する必要もなく、仕事や通学を継続しながら治療できる病気です。
(国立ハンセン病資料館のホームページより抜粋)

分科分科会について



分科会は5つ開催し、各専門部からそれぞれ実践報告や問題提議が出されます。参加の皆さんで課題を共有し、交流や討議を行います。

分科会 1

アステホール1(奥側・全体会場)

就学前教育部：川西北こども園 「子どもの姿から大人の学びへ
～自分らしさを認め合い、共に育ち合う仲間作りを目指して～」

小学校教育部：明峰小学校 「本校における人権教育の取り組み」

分科会 2

ルーム 1

中学校教育部：清和台中学校 「国際理解教育 ～共生社会の実現に向けて～」

高校教育部：川西明峰高等学校 「人権教育の実施状況について」

分科会 3

マルチスペース 2

進路保障部：東谷中学校 「つながりを大切に、安心して 学ぶことができる居場所づくり」

特別支援教育部：清和台南小学校 「特別支援学級の自立活動から発信するインクルーシブな活動の取り組み」

分科会 4

ルーム 2

PTA 連合会：PTA 連合会 「EIEN～えいえん～について」

行政部：こども政策課 「こども・若者の意見表明・参加の機会の保障に向けて
～川西市・こども・若者参加条例について～」

分科会 5

アステホール(手前側)

小学校区人権啓発推進部：久代小学校区人権啓発推進委員会・北陵小学校区人権啓発推進委員
各小学校区の取り組み・交流

兵人教研究大会 参加レポート

◆ 9月27日(土)第72回兵庫県人権教育研究大会中央大会が、豊岡市(豊岡市民会館・豊岡健康福祉センターなど)で行われました。午前は全体会(講演会)、午後からは12の分科会で実践報告・討議が行われました。川西市からは、多田小学校人権啓発推進委員会の方が報告され、11名が参加しました。参加された方の感想から一部を紹介します。

●《たつの市民化推進協議会小宅支部活動報告》
龍野ブロックの下に各小学校区6支部がありその中の小宅支部の6年に一度の人権教育実践発表会の様子、取り組みが発表されたが、その活動に驚かされた。川西市との比較で思ったのだが、その活動の多彩さと、自治会、老人会、PTAなど地域住民を巻き込んだ活動にまずびっくりさせられた。会場でも質問が多くあったが、PTAや老人クラブが、人権問題解決のためのオリジナル人権劇の公演があったということ。シナリオ作成から演技まで、PTA、老人会の方々が行ったということ。本市でも自治会、コミュニティ、各種団体との連携など学ぶべきところが多くあったと思った。

●分科会は、宝塚同教からの報告で「地域教材『教科書は誰のもの?』完成」が一度聞いてみたかったので参加した。

川西市にも、過去、市独自の人権学習副読本「いのち」があった。小低、小高、中学と3種類も。大阪府では「にんげん」が有名だったが、当時、兵庫県も「ともだち」という副読本を作成していたが、その内容は、「にんげん」と全然視点が違って、いうなれば「道徳の本」という内容だった。そのため川西市でもそれは使用せず「にんげん」などを使っていたが、やはり「地域に根ざした副読本」が必要だということで、予算はだいぶかかったが、作成に至った。(今回の宝塚のようなパンフレットみたいなものではなく、教科書より分厚い冊子だった)そんなことを思い出しながら聞いていた。

部落問題にかかわる地域教材とうたっても、宝塚のある「貧しい村」からの話で終わってしまうため(そうせざるを得ないため)、結局は、何の話(部落問題)かわからないままとなってしまう。教える教員もある意味非常に悩ましく難しい教材だと思う。とくに宝塚に限ったことではないが……。それでも、この時代にあえて作成

しようと努力しはったことについては敬意を表したい。

●記念講演の平田オリザさんの話は、大きくは多文化共生の話だった。後で調べると本人の著書で『わかりあえないことからーコミュニケーション能力とはなにかー』からの話だった……。

そもそも、現在、企業が要求するコミュニケーション能力とは、「グローバル・コミュニケーション・スキル」=「異文化理解能力」です。つまり、グローバルな経済環境の中においても価値観や文化が異なる人の意見を理解した上で、自らの考えを主張して説得したり、妥協点を見いだしたりすることができることです。

ところが、実は日本の企業は、自分たちも気がつかないうちに、別のコミュニケーション能力を求めています。それは、「上司の意図を察して機敏に行動する」「会議の空気を読んで反対意見はいわない」といった従来型のコミュニケーション能力です……。



日本では初めてあった相手に年齢を聞くのは失礼にあたるという考えが、お隣の韓国では、まず年齢を聞く(確認する)ことが、常識だそうだ。何故なら、韓国は儒教の影響などから「年上は絶対尊重する」文化とのこと。だからよく韓国では親をすごく大切にする文化であるのはよく聞いてはいたが、そんな背景も知らなかったら、そら韓国人は非常識な民族だ!みたいになるんだろうと思う。多文化共生ー異文化理解能力ーコミュニケーション力 の関連がよくわかった。

●第7分科会では、多田小学校区人権啓発推進委員会の皆さんに報告していただき大変お世話になりました。活動内容もいろいろ工夫されていましたが、報告者に中学生・高校生も入ってくださり若い方に参加していただきとても良かったです。

●第7分科会 地域における自主活動に参加した。川西市から多田小学校校区人権啓発推進委員会の取組が報告された。報告テーマは「子どもらしく居られる地域づくり～子どもの声に耳をかたむけて～」。放課後や土曜日に多田小学校の集会室や体育館で子どもたちの居場所作りを継続して行っていること、子どもたちのやりたいことをサポートする活動をしている。10年以上も継続することで、小学生だった子が中高校生になっても集まってくれること、次第に自分たちでやりたいことが子どもたちの方から発信できるようになってきたことなどが報告された。

その活動の中で、子どもの人権やヤングケアラーについて考えたり学んだりすることも行っているとのことだった。

報告では一緒に活動している中学生、高校生など子どもたちの声も聞いた。会場からはどのようにしたら子どもたちが多く集まるのか、若い人がこの活動にかかわるきっかけなど多くの質問が出て、興味深く聞いていただけた。報告に子どもたちが参加してくれたことは、取組の成果が見え、新鮮で良かった。



全人教研究大会 参加レポート

11月29日(土)30(日)第76回全国人権・同和教育研究大会が、関西学院大学・エルおおさか・大阪公立大学・近畿大学で開催され、『差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう』をテーマに20の分散会の中で90本の実践報告と討議がなされました。

川西市から19人が参加しました。感想を紹介します。

●第2分科会「自主活動」の第2分散会、4つの報告から心に残ったことを書きたい。

教師が子どもや親と関わり、悩みながら課題を解決していこうとする取り組みを自分のこととして聴かせてもらった。それは、教師自らの生き方を自問自答しながら取り組む姿に共鳴したからだった。

校区に同和地区があるないに関わらず取り組まれているその営みは、確かな未来を描きながらあらゆる差別を無くしたいという報告者の強い信念が感じられたし、報告者の機微に触れた私の心も洗われた。

●昨年に続いて2度目の参加となった。発表者の熱い思いや参加者の熱心な質問など、満員の会場は熱気にあふれていました。

質問や発言は実際に支援の場にいた教員の方が多く感じました。カミングアウトや立場の自覚についての話では、母親の心の葛藤や先生方の関わり、子どもの涙など、話を聞く度に目頭が熱くなりました。

大阪の住吉隣保事業推進協会の話では、行政からの支援がなくなってからも、いろんな団体と連携し、地域に根ざした取り組みが続けられていることに驚かされました。

●第4分科会 第3分散会に参加した。

2000年からコリアンたちの、生活、医療・福祉、言葉、など全般にわたって支援を続けているNPO法人東九条まちづくりサポートセンター「まめもやし」の村木氏がその活動での経験を語られた。

コリアン1世のオモニたちのたくましい生きざまや、昔の長屋のような家族より強い近所のコミュニティでのつながり、日常的なお金の貸し借りなど、たくましい生活ぶりに、生きる力を教えられたとのことであった。

私はこのような活動の継続にただただ感銘を受け、頭が下がる思いでいっぱいであった。地域コミュニティの大切さや、今後われわれが考えていく必要があ多文化共生について重要な示唆を与えてくれるお話であったと思う。

●全国から集まった、人権担当の先生、また同和教育に対する熱量の高い先生方の全国大会の発表。また、その熱い想いを今回初めて見せてもらいました。

現場での教師の取り組み、児童、生徒、保護者とのやりとりでの教師の葛藤や、地域の方々との連携の大切さに気づきがありました。「差別=決めつけから始まる」教師→児童の「決めつけ(=レッテル)」、そして他児童から

の指摘による教師側の気付き。教師→児童への「謝罪」など、教師生活を振り返ると、クラス替え直後など、周辺生徒からの「先生、あいつ絶対約束守らへんで」「あいつ絶対サボりですよ」というような情報による勝手な思い込みなど自身の経験も重なり、自分事として深く考えさせられました。

どの地域、どの業種においても「子どもファースト」を共通認識として持ち、活動する様子は心を動かし、討議にも盛り上がりを見せました。全国の世代がバラバラな集団での討議でしたが学びが多くありました。2日間、同じ分散会を選んで正解でした。

●発表された事例の、子どもたちが置かれた状況は様々でしたが、全ての根本は同じなのかもしれないと思いました。2日間の発表を聞きながら、自分自身が向き合っている事柄と重ね合わせ、改めて実感したことや、再度認識しないといけないと感じたことは次の3点です。

- ・「共生」とは、対等な関係性の中で実現するものである。適応を求めるのではなく、適応を支援するのではなく、共に変わることが必要なのではないか。
- ・子どもは子どもの中で育つ。そんな子どもたちの姿から大人も学ぶ。ただ“一緒にいる”だけでなく、共に育ち、共に学ぶことで、無知からくる偏見はなくなる。
- ・良かれと思ってしている配慮が、排除になっていないか。

●学校現場で、先生方がどのように子どもたちへ人権を伝えているのかを知ることができ、多くの学びがあった。特に部落問題には、全国でも今も根強い差別が残っており、「知らないこと」が差別につながるということを強く実感した。教育についてだけでなく、様々な立場の方々の意見や経験を聞くことができた。

自分自身も学び続けることの大切さを感じたとともに、正しい知識をみにつけ、周囲にも伝えていくことが重要だと感じた。参加出来て良かったです。

●第4分科会で、「女性住職が観る現世」(三重県告で、今も私たちの中に「女性住職は、男性の代わり」という意識がある。女性の役割は家事・育児・介護ばかり。その刷り込みに対する気づきと意識啓発、女性支援、制度改革について報告された。

偏見(アンコンシャスバイアス)、性的役割分担意識が女性の社会進出における様々なチャンスを阻んでいる。報告者の経験された“生きづらさ”は痛いほど共感できた。最後のまとめの意見交流の時、小学校の校長で退職

し、兵庫県新温泉町の人権センターに勤める女性の方が、「女性差別はある。個々の問題としてとらえるのではなく、社会の仕組みの中に差別があること、どうしたらそれらを乗り越えられるか、皆で考えてみるのが大切ではないか」と発言され、とても共感しました。

●会場いっぱいの参加者で活気がありました。子どもたちに関わる熱心な発表でした。地域活動や子ども食堂がとても活発なのが不思議です。(自分が地域活動に参加していなくて知らないだけなのかも)

つながる・関わることを惜しまない発表者さんたちも、質問意見を述べられる参加者さんたちも熱いなあ。大会の良さは皆が耳を傾けて受け入れてくれる状況がつけられることかな。



大会宣言より抜粋

私たちは知っている
差別に苦しみながらも
前を向き人を信じ
希望の光を求めて生きる 子どもや親の姿を

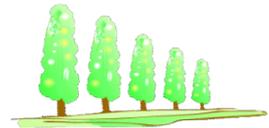
私たちは知っている
教育が人を変え 社会を変え 未来を創ることを
教育には 人間の尊厳を取り戻す力があることを

私たちは継承する
差別と向き合い 闘い 乗り越えようとした人びとのおもいを
差別の現実から出発し そこに学びの原点を置く教育を
さまざまな人の力で実現した この学びの機会を

.....
.....

一人ひとりが 変革の担い手となり
差別の無い 平和で持続可能な社会を造り出そう
すべての子どもたちに 希望の光を
すべての人びとに 尊厳と誇りを

2025 人権・現地学習会



奈良コース 12月16日(火)

「水平社博物館」に34名で行きました。2グループに分かれ、館内見学とフィールドワークを交代しながら行いました。お天気に恵まれ、フィールドワークは日傘がほしくなるほどの暖かさでした。いずれもガイドの方に説明をしていただきました。

フィールドワークでは、水平社創立に関わった3人の若者の生まれや育ちを、生家跡や記念碑をめくりながら伺いました。村の中では不自由のない環境であり、友がいて、勉学に励み、絵をかき、夢を持って育っていた若者たち。それが、村を出たら差別される。東京まで出ても、ふるさとを知られ、差別される。辛い思いや差別に負けそうになりながら、苦難の末、同郷の友と一緒に立ち上がったことなどを知りました。

館内では、その運動が全国へつながり広がったこと、戦争という大きな渦の中、誤った方向へ行ってしまったこと、戦後は自戒の念を持ち、新たに活動を始めたこと、今もなお、部落差別の現実があることなどを学びました。たった数時間でしたが、解放運動の歴史がしっかり学べた一日でした。

フィールドワーク



～参加者の感想より～

◆今までの同和のイメージは貧しい人、暗いなどの負のイメージでしたが、今回の地区はきれいで、財を持っていてびっくりでした。ただ学校へあがったとき等の精神的な不安は私たちには理解できないものを背負って生きていたのですね。だからこそ、水平社ができたのだと思いました。人類は平等でなければならない、水平でなければならない、差別は差別をする人がいるから生まれる。まさにそのとおりですね。

◆現地学習会に初めて参加しました。奈良の地区が発祥ともしらず。私は高槻で育ち、部落の話は学校の授業でもかなり時間をかけて学習しました。友だちも部落の方も多く、悩みを聞いたりしていました。嫁に行くときが一番不安だったようです。

◆50年以上昔、小学生高学年の頃、初めて同和問題について教わり、親世代との違いに反発する心と説得する程の理解が深まっていない無力感があつたように思います。…改めて水平社の歴史を勉強させていただきまだまだ平等な世の中は道なかばであり、きちんと意識していかないといけないと感じました。

◆「水平社博物館」の学習は3回目でした。リニューアルされて以前とすごく違っているのに驚きました。館長さんの資料にもあったように、固くて重い「人権」や「差別」の固定化されたイメージを変えよう、女性活動家の闘いや部落解放の理念とつながるようマンガや絵本、歌の歌詞なども積極的に展示し、知っていることとつながって人権や差別について興味関心を持ってもらおうとしたり、現在の人権課題も扱われるなど、内容の中を広げるようにつとめられた努力がすごくわかりました。

◆差別は土農工商の下にできたと思っていましたが、そうではないと初めて知りました。人のいやがる大事な事をしていただくありがたい存在だったんですね。

◆基本的人権を大日本帝国の時代に先がけてうたった水平社宣言の字句の素晴らしさに感動しました。1つ残念だったのは、婦人の視点が欠けていたことです。そして時代の波に逆らえなかったと思われませんが、ファシズムの波にのまれ戦争を“是”としたことが残念でなりません。今の日本も戦争への道をたどっており、市民ひとりひとりが基本的人権意識を高めることで反戦の思いを集めていくことが大切かと思われまます。

◆「橋のない川」の映画や本で知っている程度で、詳しいことも知らず参加してびっくり、そんなに貧しくもなく西光寺を村人30人位で建てたと聞いて驚きました。水平社の男性たちも頑張ったけど、女性水平社を作った村人たちもすごかった。参加して良かった。

講話を聞く



神戸コース 12月19日(金)



「人と防災未来センター」と「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム」に27人で行きました。

「人と防災未来センター」は現地学習会で何度か行っています。今回は、現地ガイドの方に阪神淡路大震災1.17についてお話を伺いました。避難所のこと、警察や消防の臨機応変な対応のこと、民間として支援物資の輸送に関わられたことなど、30年たった今でも昨日のこのように話されていました。再現映像からは恐怖が伝わってきました。あの日を忘れてはならないこと、防災の重要など改めて感じました。

「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム」へは現地学習会では初めて行きました。場所は、震災で焼けてしまった、長田地区です。JR新長田駅のすぐ南側にあり、戦後の神戸のケミカルシューズ産業を支えた企業の6、7割が朝鮮人の経営者であったといわれ、その従業員や家族が長田に住んでおられました。震災で避難された2世の方の中には、読み書きができない方も多くおられたことから、このミュージアムで識字教室が開かれるようになったそうです。フォールドワークでは、かつての朝鮮人学校跡(現長田南小学校)や朝鮮人部落跡、震災前に賑わっていた商店街などを90分近く歩いて見学しました。賑わっていた町や商店、工場は焼けてしまい、きれいな道路と目新しいビルや家が建ち並び、在日コリアンの方々の今の姿が見えにくくなっています。

フィールドワーク



～参加者の感想より～

◆今回の現地学習会 神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアムは、阪神淡路大震災を含めて3回目の参加ですが、改めて、定期的で開催してしっかりと感じ取り自覚することの必要性を強く感じた。こういった大災害で一番懸念されるのが風化され、大災害に対する準備や減災意識が年月が経過するにつれて低下していくことで、こういった講演講義の開催の必要性を改めて感じた。

◆人と防災未来センターは初めて来ることができました。講師の方が「命を救うのが先!」と強くおっしゃられたのが、とても心に響きました。また、大規模な自然災害が起こったとき、「現実的にどう動けばいいのか。」実行する力をつけていくための日頃の訓練、各家庭での備え(ローリングストック)の大切さを改めて深く感じました。また家族でゆっくり時間をかけて来訪したいと思います。

◆人と防災未来センターに久しぶりに見学でき、以前とまったく異なっていたのでよい学習になりました。長田区は一度訪れてみたいと思いつつ震災から31年もたってしまいました。街の復興に驚き、在日韓国朝鮮の方々の歴史を知り、改めて「同じ人間どうし」なのにひどく厳しかった民族差別を学びなおし、自分の生き方として「人を大切にする」生き方を大事にしようと思いました。

◆震災の立派なミュージアムの後に新長田のコリアンことばのミュージアムを見るという順番がとても良かったです。はじめはどんなつながりがあるんだろう?と思ったのですが、震災ですさまじい被害を受けて、その後の復興の様子を見て、人間は自然災害を通して学び、強くたくましさ伝えていくことが大事だと思いました。そして、長田で暮らしていた在日コリアンと呼ばれる方々の生活が知れて本当に活力をいただきました。



◆「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム」は初めての当地訪問。TV等で放映されていた長田商店街と隣接するマンション群、その大差に複雑な思いがした。朝鮮の方々のご苦勞を…ねぎらいます。

◆人と防災未来センターの震災の映像が生々しくて、あれほどまでのすごさはテレビでしか見ていないので、胸が痛く涙が出そうでした。その場に居合わせた方の気持ちは、はかり知れません。改めて地震の恐ろしさを再確認しました。

◆防災センターは2回目になりますが、いまだに30年前を思い出します。今日の語り部の人の話は「生きた言葉」で心に響く言葉でした。だんだん防災意識が薄れる中、他人事のように聞いてはいけな、自分の事として聞くことを伝えていこうと思いました。

講話を聞く



多くの市民の方に参加していただき、現地学習会が行えました。現地で見るとお話を伺うことで、それぞれの方の心に何か伝わったことと思います。

参加して下さったみなさん、お世話いただいた校区人権啓発推進委員長さん、ありがとうございました。

(事務局)

「かわにし人権ブックレット」の紹介

※在庫があります。その他はホームページに記載しています。

- VOL.29 川西の人権教育・啓発の課題～人権問題に関する市民意識調査からみえてきたもの～ 川西市人権施策審議会会長 石元 清英
- VOL.28 水平社100年を経て考える人権～部落問題を中心に～ 関西大学人権問題研究室委嘱研究員 宮前 千雅子
- VOL.27 インターネットの部落問題～「無関心」でいられても「無関係」でられない～「反差別・人権研究所みえ」 松村 元樹
- VOL.26 「ともに生きるために大切な人権意識」 わたなベメンタルクリニック 院長 渡邊 純
- VOL.25 「今日から はじまる 人権学習」～子どもが安心できる地域・家庭・学校づくり～ 大阪教育大学 佐久間 敦史
- VOL.24 「目からウロコ！人権への気づきと実行」～みんなが笑顔になるために～ 三木市人権・同和教育協議会 春川 政信
- VOL.23 『部落差別解消推進法』が成立 その意義と課題について 友永 健三
- VOL.22 人権の世間をつくる 向き合うからいっしょに取り組むへ 奥田 均
- VOL.21 出会いは心の光～川西緑台高等学校放送部制作「視えるということ」とともに～ 落語家 桂 福点・放送部 薄井 真晃
- VOL.20 ありのままの自分を生きる 金子（仲岡） 旬 ※現在は弁護士

お知らせ①



令和7(2025)年度 川西市ジェンダー平等推進市民企画員 企画講演会

おとなも学ぼう！ ジェンダー平等

ジェンダー平等やLGBTQ+の観点から「自分らしさとつながり」の学びを学校に届ける吉川ヒロさんと学びます。みんなが生きやすい川西市を共につくりませんか。

講師 吉川 ヒロさん
大阪府在住。幼少期から性別違和を感じ「なんだか人と違う」と思いつつ育つ。20歳での就職先での差別が最後のおっかけとなり、性別マイノリティとして生きる道へ進む。当事者として、2012年頃から多様な性に関する啓発活動や相談業務に携わり始める。2024年秋現在で講演活動は全国、年間約90回以上の依頼を受け、LGBTQ+やジェンダー平等に関する講演や研修相談を続けつつ、自分のままでと繋がるための学びの体験を届ける対話・書くユニット「Atomion」の共同代表としても、教育現場を中心に活動を行っている。

令和8年(2026年) **2月21日(土)** **参加費 無料**
午後1時30分～午後3時(開場/午後1時～)

会場 アステホール(アステ川西6階)
〒666-0033 兵庫県川西市東町25-1

定員 100名(先着順・事前申し込み不要)

その他 要約筆記、手話通訳あり
一時保育は 無料(4名)
(1歳半以上の未就学児、先着4名)
●令和8年2月6日(金)までに川西市役所人権推進多文化共生課へお申し込みください。

お問い合わせ先：川西市役所人権推進多文化共生課 Tel.072-740-1150

お知らせ②

★2026 年度の研究会等の日程

- ◆阪神地区人権・同和教育研究会
日時 7月25日(土) 午前
場所 三田市(三田学園中・高)
- ◆兵庫県人権教育研究会中央大会
日時 9月26日(土)
場所 南あわじ市
- ◆全国人権・同和教育研究会
日時 11月28日(土)・29日(日)
場所 埼玉県など
- ◆川西市人権教育研究会
日時 2027年2月5日(金)
場所 アステ川西

【お詫び】川西人権協だより123号(前号)の3ページ「2025年度 理事一覧表」の中に伊丹人権擁護委員協議会の前田玲子さんのお名前が記載できていませんでした。この場をかりましてお詫び申し上げます。

【編集後記】

今年度も阪神、兵庫県、全国と人権教育研究会が開催されました。全国大会については、急遽、地元開催となりましたが、全国から実践報告がされ、多くの方に参加していただいたこと、事務局としては、開催ができて良かったなと思えました。

今年度最後の会は2月6日の第38回川西市人権

教育研究会です。ひとりでも多くのかたに参加していただければと思います。

今、世界は大きな変わり目なのか、各国の関心に大きな渦が巻き始めているかのようです。私たちは「過ちはくり返しません」の誓いを破らぬよう、明るい未来につながるよう、行動したいと思えます。

